

よっ!!

ONE FOR ALL! ALL FOR ONE!

- 2007 -

第10号

9月5日

時折、秋の風を感じます。



前へ、前へ!!!

あたらしい季節の始まりです。

統括管理部

グループHiRAC，日本土木学会関西支部創立80周年記念行事で公式デビュー コンクリートカヌー大会，一般団体競漕の部 堂々1位

- 2007年8月25日(土)，グループHiRAC は日本土木学会関西支部創立80周年記念行事のコンクリートカヌー大会に参加しました。岡澤さん・南さんがクルーとして敗者復活戦で勝ち上がった『Beton 2』は，決勝戦に進出した競漕の部において，一般団体では堂々1位(41艇中4位)の成績を上げました。総合1位は，神戸大学でした。(関連裏面)

- ▶ いつまでも拍手が鳴り止まなかった。
誰に対するものでもなく、決勝に全力を出し切ったクルー達へのものである。
ふと、振り返ると仲間たちがゴール近くまで走りよってきた。
クルーが知らない、君たちを讃える光景だった。
- ▶ 天を向く君、水面を見つめながらひたすら戻ってくる君
顔が年を重ね、筋肉が疲労に震えていても、心は青年だった。
- ▶ 言い訳をしない。
おごり高ぶらない。
理由をつけない。
そして、結果をねだらない。
そんな姿に、観衆は胸を奮わせる熱き想いを感じていた。
- ▶ ポスターセッションでリーダーは上位入賞を広く宣言した。
メンバー23名それぞれが
職場を守るために身につけてきた知恵で
言葉だけでなく仕事で勝負してきた
現場のプライドからだった。
- ▶ 無名の HiRAC を徐々に観衆が口にし始める。
メンバーが神戸新聞の取材を受ける。

これが、評価だ。
無心の行為が、評価を生む。
- ▶ 決勝レースに残った6艇
グループ HiRAC Beton 2、ベスト3のタイムでファイナリストに躍り出た。
一般団体の部では、唯一の艇である。

スタートライン、疲れてはいたが凜としていた。
結果は4位。
最終的には組織票に敗れ総合6位となった。
だがそれは、我々の実力の物差しでは決してない。
- ▶ メンバーたちは、次回の参加を口々に拒否した。
しかし、信じている。
日々の職務をこなしながら、
新たなステージに再び挑む青年達を!!!



from Team Gi²



平成19年度 全国生コンクリート品質管理監査

平成19年度全国統一品質管理監査が行われます。

10月上旬～12月上旬予定

監査員研修会は，9月12日・20日に行われます。



ISO9001:2000

サーベイランス予定



日時：12月中旬
審査員：岡田 正隆 主任審査員
(登録分野15, 16, 28, 35)

コンクリートカーナー大会

24日 15:00 搬入



抽選

Beton 1 第2レース
Beton 2 第5レース
渉 第6レース



25日 8:00 受付

9:00 開会式



9:30 ポスターセッションの部
課題研究発表会

審査資料の公表、カーナーならびにポスターに対する投票
船体審査、特別賞の選定



11:00 カーナー移動作業

(カーナー展示会場から競漕会場へカーナーを移送)



13:30 カーナー競漕

Beton 1

24位(総合18位)



Beton 2

4位(総合6位)



渉

Team Gi²

20位(総合10位)



16:30 閉会式

成績発表・表彰、講評、閉会宣言



特別賞受賞



応援団長・夏希くん



応援して下さった皆様、有難うございました。

中川哲朗さん・夏希くん、榎さん、板野さんご家族、榎木精工株式会社

株式会社泉北近圧ポンプ、株式会社泰陽技研、株式会社西井商店兵庫大阪生コン輸送チーム

9月30日、堺市建設局土木部主催行事に、ふたたび参加します。

与えられた材料で、よい製品を作る知恵を…!

直系より、直系らしく !!!

- 高強度コンクリート、高流動コンクリートなど我々に対する要求は、広く・高く・強くなっています。
- このことを見逃したり、要求に怠情であると、浦島太郎になってしまい、社会からいずれ反撃を受けることになります。
- 我々は、『組織』や『枠組み』にとらわれずに個々の知恵の蓄積のために、様々な取り組みを実施していきたいと思っています。
- 技術者として、安易にできるモノを使用するのではなく、できないモノをできるモノに変えていく営みの中から、また風潮に流されることなく、与えられた材料を使って要求を満足できるモノを作り上げる活動の中から、我々の力を高めたいとも考えています。
- 『Beyond the 80』、『Under 600』を合い言葉に、『直系より、直系らしく』をメッセージに、住友大阪セメントを基本の材料としてこの夏、新たな取り組みをはじめました。一年以上の期間を要するプロジェクトですが、新たな成果をご報告できると確信しています。



口語訳ISO9001:2000

第 10 回



3章 言葉の定義

ISO9001で使う言葉の定義は、ISO9001の「3.言葉の定義」に従います。

ISO9001(2000年版)では、製品の取引に関わる当事者の呼び方を次のように変更しました。

2000年版 供給者 組織 顧客

1994年版 下請負契約者 供給者 顧客

この口語訳では、以下のように表現します。

「取引業者」「会社(組織)」「お客さん」

「組織」については、取得する組織の多くが会社ですので、「会社」を主たる呼び方にしました。

「組織」とすると、口語訳を用いる大多数である会社所属の方にとって、感覚的に分かりにくくなるからです。

財団法人、学校法人、医療法人、NGOなど会社でない組織の皆様には読みにくくなりますが、ご了解下さい。文脈に応じて「会社や組織」「会社(または組織)」などとも書いています。

「お客さん」は、違和感があるとの意見もいただいておりますが、関西ではこの言い方が普通で、より口語的ですので、あえて使います。

「取引業者」についても異論があるのですが、良い代替案(特定のイメージを与えない用語)がないため、これを使います。

